

## 共同研究会活動報告

UDC 621.771.221.23(047)

## 鉄鋼協会共同研究会鋼板部会各分科会活動報告

部会長 有 村 康 男\*

Report of the Steel Plates and Sheets Committee of  
the Joint Research Society of ISIJ

Yasuo ARIMURA

昭和 30 年 5 月鉄鋼技術研究会鋼材部会の第 1 回厚板分科会が東京において開催されたのを皮切りに同年 10 月分塊分科会が発足、続いて 10 月鋼材部会薄板分科会が開かれ鋼板部会の骨格が完成した。

その後、昭和 40 年に薄板分科会がホットストリップ分科会とコールドストリップ分科会に発展解消し現在の鋼板部分の各分科会が完成し、鉄鋼の熱間圧延及び冷間圧延に関する設備、技術に関する情報交換の場が確立、この場を通して我国の圧延技術が世界のトップレベルに飛躍する基礎ができ上った。しかし本部会はその設備プロセス・製品形態の相違から部会単位の活動は行なわないで、各分科会ごとの自主的活動を通して今日の分科会の隆盛を得ている。分科会の構成はホットストリップ分科会のみが一貫メーカーで構成されているが、他の 3 分科会（分塊、厚板、コールドストリップの各分科会）はいずれも非一貫メーカーを含んでいる。

以下に各分科会ごとにその運営方法や最近の技術的特筆記事項についてのべ活動報告としたい。

## 分 塊 分 科 会 活 動 報 告

主 査 玉 本 茂\*\*

Report of the Blooming and Slabbing Subcommittee  
of Steel Plates and Sheets Committee

Shigeru TAMAMOTO

## 1. 結 言

昭和 30 年 10 月川崎製鉄(株)千葉製鉄所にて第 1 回分塊分科会を開催して以来早くも 21 年目を迎え本年 5 月の開催で 42 回目となる。この間国内外の経済の動向に左右されながらも、当分科会は回を重ねるごとに増々発展し、現在は参加会社 11 社 23 事業所出席者数約 100~120 名となり条用分塊、板用分塊にわかれての活発な議題討議を通じ我が国の分塊技術のレベルアップに寄与するところきわめて大きいと考える。以下に当分科会の活動状況および技術的進歩の特記点を取りまとめ報告する。

## 2. 活動状況について

分塊分科会は年 2 回春、秋にそれぞれ開催し、いずれも 1.5 日間の日程で行ない、第 1 日目は議題 討議およ

び懇親会、第 2 日目は特別講演会および工場見学というスケジュールで進めている。

議題は I. 操業調査表、II. 作業時間調査表、III. 共通議題、IV. 自由議題で構成し、討議の重点は共通議題に置いており、そのテーマはアンケートまたは幹事会の審議により各社のニーズ・時機に合ったものを選定するように努めている。過去 5 年間に取り上げた議題の一覧表を表 1 に示す。なお、討議をより活発にし、かつ充実させるために、資料の事前相互送付、質問票の事前提出を行ない (S 48 年第 36 回より) また条用分塊・板用分塊の特性および参加人員の増大を考慮し、条用・板用の 2 グループにわかれての討議を行なうことにしている。(S. 45 年第 30 回より)

第 1 日目の夜は懇親会を開催地主催で行ない、屋間の討議の緊張疲れを癒やすと同時に相互交流の中で自由な意見や情報の交換が行なわれきわめて有意義な場となっ

\* 川崎製鉄(株)取締役千葉製鉄所副所長

\*\* 住友金属工業(株)和歌山製鉄所副所長兼製鋼部長兼技術管理部長